

豊庄だより



第 546 号 2019 年 1 月 7 日

新しい年を迎えました。あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

今年の干支（えと）は、亥（いのしし）です。亥の元気のよさにつ

いては、昨年 12 月の生活発表会で、ひまわり組の劇「十二支のおはなし」に登場したイノシシさんの走り方でお判りでしょう。それにしても猪突猛進（ちよとつもうしん）とはよくぞ言ったものです。あのイノシシ、本当に速くて強かったですね（ステージの前を疾走する姿を撮ろうとカメラで追いかけたのですが、ピントがうまくあわず、ここに紹介できないのが残念です）。

さて、今年の干支のイノシシについて気になることがあります。それは「亥」という漢字についてです。この漢字、干支で登場する以外、漢字の一部として使われること（咳、核、骸など）はあっても、単独で使われているのを目にすることはほとんどありません。イノシシの漢字といえば、現在は、「猪」を使います。なぜ干支の場合「亥」を使うのか？この「亥」にはどんな意味があるのか？その成り立ちは？と、次々に疑問が湧いてきたのです。そこで、国語辞典や漢和辞典（「明鏡国語辞典」「新漢語林」二冊とも大修館書店）で調べてみることにしました。その結果、「亥」という字は、亀甲（きっこう）や獣の骨に刻まれた中国古代の文字、甲骨文字がその起源であること、甲骨文字は現在使われている漢字の最古の形となるもので、「亥」は動物のイノシシの形を表していることがわかりました。さらに辞典には興味深い記述がありました。それは「亥豕之譌」（「ガイシの力」と読む。豕は豚のこと。譌はあやまりという意味。）という中国の古典の引用文でした。意味は、「文字の写し誤り」で、「亥」と「豕」とが字形が似ているために、「亥」を「豕」と誤ったという故事によるものという説明でした。おやっと思いました。中国では十二支に「猪」でなく「豚」が入っています。前述の古典の引用文から考えられるのは、写し誤りから起こったこととなります。これ以上の論考はこの分野に詳しい人に譲ります。私の能力を超えています。ただ中国の古代の時代からイノシシはすでに存在し、その肉は食べられてきたことは事実といえるでしょう。（※この故事は『呂氏春秋、察伝』という古典に載っているということですから。興味のある方は調べてみてください。）

話題は現代に飛びます。イノシシのやっかいな問題です。山村の人口の減少で山が荒れたせいもあり、イノシシが人間の生活圏までやってきて、農作物を荒らすようになってきました。私の育った山村では、イノシシ対策として、柵を作り、農作物を守る取り組みがなされるようになりましたが、賢いイノシシには敵わないのか、人家から離れた畑や田圃はイノシシの天下になっています。イノシシの害は、開発が進んだ都会でも起こるようになってきました。福岡市西区の JR 今宿駅付近に現れたイノシシが通勤途中の会社員を襲ったというニュースには、とうとうここまで来たかという感想を持ちました。

イノシシの肉は臭みがありますが、味噌仕立てにして食べれば問題なく、山里の貴重なタンパク源でした。山の中に住むイノシシを捕らえて食する、そのため増えずにバランスが保たれていたと言えます。

古代の人達が文字にするほど人間の身近にいた動物が今、行き場をなくしています。



今年の羽子板
作：絵画教室井上先生